

HRP 発色基質(TMB)for Western

Cat No. BW-2010

【目的・用途】

HRP(西洋わさびペルオキシダーゼ)標識抗体を検出するためのTMB(3,3',5,5'-tetramethylbenzidine)発色基質です。本試薬はウェスタンブロット用に調製されたものですので、ELISA法の発色基質としてはご使用になれません。

【特徴】

- 1) ピコグラムレベルの検出感度
- 2) Ready-to-use
- 3) DAB に比べ高い安全性
- 4) 検出に特殊な機械は必要ありません

【キット内容・保存方法】

| 内容 | 容量 | 開封後の保存方法 |
|---------|--|----------|
| TMB発色基質 | 100mL (メンブレン 1000cm ² 分) | 4°C |

【使用期限】

上記保存方法にて6ヶ月

※室温に長時間放置すると、こはく色または水色を呈することがあります。
感度低下の原因となりますので、必ず4°Cで保存してください。

【基本プロトコール】

通常の方法に従って二次抗体反応まで行います。

- 1) TMB 発色基質をあらかじめ室温に戻しておいてください。必要量は1cm²あたり100uLです。
- 2) 洗浄 <5分間×3>
HRPで標識した抗体を反応させた転写膜を洗浄バッファーで十分に洗浄して下さい。不十分な洗浄は高いバックグラウンドの原因となります。
- 3) 検出 <2分~15分>
洗浄した転写膜を清潔なトレイに置き、必要量(1cm²あたり100uL)のTMB発色基質をのせます。転写膜全体に溶液が行き渡るようにしてください。
反応時間はサンプルに依存しますが、2分~15分で青い色素の沈着が見られます。反応時間が長すぎると高いバックグラウンドの原因となります。
※この時振とうするとシグナルが流れたり、感度が低下することがありますので、必ず静置して行ってください。
- 4) 反応停止 <20~30秒間>
バックグラウンドが高くなる前に、大量の蒸留水を用いて20~30秒間転写膜を洗浄し、反応を停止してください。
- 5) 転写膜の保存
反応後の転写膜はキムワイブ等にはさんでよく乾燥させた後、遮光しプラスチックバックなどで密封してください。シグナルは徐々に退色しますので、スキャナーなどで取り込んでおくことをおすすめします。



株式会社ファーマフーズ アプロサイエンスグループ
〒770-0865 徳島県徳島市南末広町4-53 エコービル4階
■Tel:088-678-6372 ■Mail:bio@apro-s.com
■Url:https://apro-s.com/
本社 〒615-8245 京都府京都市西京区御陵大原1-49